

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【土呂中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	<p>○現在、「語句や用語の意味・意義を含めた理解の定着」が課題である。この課題をふまえて、以下に3つの学力向上策を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な確実な習得を図るため、国語の漢字小テストや各教科のモジュール授業(朝学習)を活用し、知識の定着状況を可視化する。</li> <li>・ICTのデジタルドリルや個別最適化学習ツール(スタディサプリ等)を活用し、生徒の習熟度に応じた反復練習を行う。</li> <li>・振り返りを書くなど「書く活動」を行う時に、使うべき語句や用語を示すなど、既習語句の意味がどのように学習内容に関わっているのかを意識させるような条件付けを行う。</li> </ul>
思考・判断・表現	<p>○文章や資料の内容を関連付けて理解し、自分の言葉で根拠を示しながら説明する力の育成が課題である。</p> <p>この課題をふまえて、以下に3つの学力向上策を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、「なぜそう考えたのか」を言語化する場面を意図的に設定する。</li> <li>・各教科の文章で表現する活動を行う際に、「①要点を取る→②根拠を示す→③自分の言葉でまとめる」など、細かく段階に分けて指導する。</li> <li>・ICT等を活用し、他者と振り返りを相互評価したり、振り返りを蓄積することで、文章を推敲する力や自己の成長をメタ認知させる。</li> </ul>

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt; 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況について、習得が十分な生徒と習得が不十分な生徒で偏りが見られる。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 個別最適化学習のための時間や、自分の学習到達度をメタ認知する時間を十分に確保できていない。</p>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な知識・技能の習得が不十分な生徒に向けて、補習の時間をとったり、補助教材を配布する。【定期テスト前の放課後】</li> <li>・ルーブリック評価を用いて、目標と評価を具体的に示し、自分の学習到達度をメタ認知する機会を設ける。【各単元のまとめで】</li> <li>・スクールダッシュボードの「授業アンケート」を活用し、生徒自ら学習内容を振り返る場面を設けたり、教員が生徒の学習到達度を確認し、個別最適化学習に向けた取り組みができるようにする。【各教科単元ごとに1回以上実施】</li> </ul>
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt; 自分の考えを表現したり、発表したりすることに苦手意識がある生徒が多い。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 生徒が自分の考えをまとめたり、発表をする活動の場面の設定が十分にされていない。</p>	<p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーブリック評価を用いて、まとめ方の見本を見せながら自分の言葉で内容をまとめる時間を設ける。【毎授業】</li> <li>・ICT機器や思考ツールなどを用いて、生徒が自分の意見をまとめるための手段を増やせるようにする。【各教科毎単元で実施】</li> <li>・各教科において、生徒が発表する活動をより多く設定する。【各教科単元ごとに1回は発表する活動を設ける】</li> </ul>

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト前の質問会等で、知識・技能の習得が不十分だと考える生徒に補習を行っている。教科によっては、毎週決まった曜日の放課後に補習を行っている。</li> <li>・ルーブリックによる評価基準や、単元の課題や授業の目標を明確にすることで、生徒に自分の学習到達度をメタ認知させる機会を設定している。</li> <li>・社会科では、スクールダッシュボードを活用して振り返りを行い、教員の生徒理解を深めるために役立っている。</li> </ul>
思考・判断・表現	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が授業のまとめを行いやすいように、授業の初めにルーブリック評価や単元・授業の課題を生徒に分かりやすく提示している。</li> <li>・スクールダッシュボードや、学びの足跡等に授業のまとめを打ち込む活動を行い、文章で表現する機会を設けている。</li> <li>・教科ごとに、班内での発表や学級全体に向けた発表の機会を増やすよう取り組んでいる。また学校課題である「食育」の活動では、教科横断的な学びを生かし、自分の意見を他者に伝える活動を多く取り入れている。</li> </ul>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>国語、数学ともに全ての項目の平均正答率において、全国平均を上回った。特に、国語の「書くこと」と数学の「図形」に対する平均正答率は非常に高い数値であった。</p> <p>しかしながら、国語では、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」において、「文脈に即した漢字の使い方」、数学では、「関数」において若干の課題がみられた。</p>
思考・判断・表現	<p>国語、数学ともに思考・判断・表現の平均正答率において、全国平均を上回った。しかし、国語の「話すこと、聞くこと」における表現の工夫を選択する問題や、数学の証明や数学的な説明の問題で無回答率が高いという課題がみられた。</p> <p>このことから、書くこと、発表することに対する知識や技能はあるものの、記述や発表に対して苦手意識があったり、問題として出題された時に答えることを避けやすい傾向にあることが分かる。</p> <p>このことをふまえて、国語と数学に限らず、学習活動や学びの足跡をととして「書く活動」を充実させていきたい。</p>

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	<p>国語及び数学の両教科において、市平均を上回る結果となった。基礎的・基本的な知識技能の定着が図られており、日常的な学習活動が成果として表れている。</p> <p>理科では、選択問題や短答形式の問題の正答率が高く基礎的な知識や概念の理解が十分身に付いていることが確認できる。観察・実験を通じた学習や知識の確認が効果的に機能していると考えられる。</p> <p>一方で、全科目に共通して語句や用語の意味を知っている段階にとどまり、それらが持つ具体的な意味・意義を深く理解し、活用する力に課題がみられる。これは、理由を選択する問題、資料や文章の内容を関連付けて理解する問題、用語そのものの意味を問われる問題などで、正答率が低いことから見て取れる。</p>
思考・判断・表現	<p>市平均は上回っているものの、どの教科でもさいたま市と同じような課題の傾向があった。</p> <p>選択問題や短答形式の問題と比較すると長文記述の無解答率が高く、正答率が低いことが顕著である。文章や資料の内容を関連付けて理解し、自分の言葉で根拠を示しながら説明する力が不十分であると考えられる。</p> <p>また分析の結果、記述する際に必要な語句や参考にする部分を資料や問題文から捉えられていないことが多く、解答はできても正答まではなかなかできていない傾向にあることが判明した。</p> <p>以上のことから、言語化・説明活動の充実だけでなく、文章を構成する時に何に着目すべきかを資料や文章から読み解く学習が必要であると考察できる。</p>

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト前の質問会等で、知識・技能の習得が不十分だと考える生徒に補習を行っている。教科によっては、毎週決まった曜日の放課後に補習を行っている。</li> <li>・明確にルーブリック評価を生徒に伝えることは少ないが、単元の課題や授業の目標を明確にすることで、生徒に自分の学習到達度をメタ認知させる機会を設定している。</li> <li>・社会科では、スクールダッシュボードを活用して振り返りを行い、教員の生徒理解を深めるために役立っている。</li> </ul>	変更なし
思考・判断・表現	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が授業のまとめを行いやすいように、授業の初めにルーブリック評価や単元・授業の課題を生徒に分かりやすく提示している。</li> <li>・スクールダッシュボードや、学びの足跡等に授業のまとめを打ち込む活動を行い、文章で表現する機会を設けている。</li> <li>・教科ごとに、班内での発表や学級全体に向けた発表の機会を増やすよう取り組んでいる。また発表に限らず、自分の意見を他者に伝える活動を多く取り入れている。</li> </ul>	変更なし